研究課題　賀茂別雷神社文書の調査・研究

研究経費　二二一万四九六〇円（前年度よりの繰越分を含む）

研究組織

　研究代表者　　　金子拓

　所内共同研究者　遠藤基郎・遠藤珠紀・川本慎自・林晃弘・石津裕之

　所外共同研究者　伊藤真昭・宇野日出生（京都市歴史資料館）・大山喬平・加瀬直弥（國學院大学神道文化学部）・久留島典子（神奈川大学）・五島邦治（京都芸術大学）・三光寺由実子（和歌山大学経済学部）・志賀節子・須磨千頴（南山大学名誉教授）・大東敬明（國學院大学研究開発推進機構）・高橋敏子・竹田和夫（新潟大学）・辰田芳雄（就実大学）・谷徹也（立命館大学文学部）・中川学（東北大学高度教養教育・学生支援機構・）・野田泰三（京都橘大学文学部）・藤田恒春（賀茂別雷神社史料編纂委員会）・三枝暁子（東京大学大学院人文社会系研究科）・山本宗尚（一般財団法人リモート・センシング技術センター）・横井靖仁（関西大学）

研究の概要

（１）課題の概要

　これまで史料編纂所では、賀茂別雷神社文書（京都府賀茂別雷神社所蔵）について継続的な調査・撮影をおこない、画像やデータの蓄積とその公開を進めてきた。賀茂別雷神社文書は、近年の京都府による調査で約一四〇〇〇点に整理されたが、史料編纂所ではこのうち四二二二点（二一二五〇コマ）のデジタル化を終えている（二〇二〇年度までのデータ）。  
同社文書については、文明8年（一四七六）の賀茂一社争乱といわれる祠官と氏人との争い以前のものは少なく、これ以後、江戸時代前期の寛文五年（一六六五）頃までの文書を非常に多く残している。本研究においては、この期間の文書約八〇〇〇点のうち、中世を中心に調査・撮影をさらに継続し、デジタル化・データベースからの公開（研究資源化）を進めるとともに、これらを用いた賀茂別雷神社、同社の文書、および同社の神事、組織、所領について、また、同社の文書を用いた中近世の政治史、文化史などの研究をおこなう。さらに今期は、有力社司家所蔵文書へも調査を広げて研究を行なう。

（２）研究の成果

　今年度は最終年度にあたっていたため、成果報告のための研究会を開催し、また、二冊目の研究成果報告書『続 賀茂別雷神社の所領と氏人』を刊行した。また、所内共同研究者および共同研究員が責任編集となって、賀茂別雷神社史料編纂委員会より『賀茂別雷神社史料３　賀茂神主経久記Ⅰ』を刊行した。  
成果報告書は、前冊同様、氏人組織や社領に関する中世および近世の研究、また、賀茂別雷神社を研究するうえで貴重な史料の史料紹介を収めたものであり、時代を問わず多様な関心から賀茂別雷神社文書に関心をもつ研究者が集まったからこその成果であると考える。  
さらに、國學院大学博物館特別展「都の神 やしろとまつり 賀茂別雷神社の至宝」展（史料編纂所協力、二〇二一年一月二七日～三月二六日）において、研究成果の一部を公開した。